

地震と津波が地域を一変させた東日本大震災から3か月。被災地では、保育所や幼稚園にも大きな被害があったが、ここにきて活動は徐々に再開している。保育の再開は、利用する親子を支えるだけでなく、地域全体の復興への力となる。(輪原智子、小坂佳子)

東日本大震災

「きょうね、避難所に遊びに行ったら、お友達に会ったんだよ」

宮城県南三陸町の医師、西沢匡史さん(39)は、今月初め、長女(5)が目を叩かせてその日の出来事話を聞かされた。改めて被災した。

震災の日まで、長女は同町志津川地区の私立あさひ幼稚園に通っていた。しかし、津

親も支え復興手助け

津波で甚大な被害のあった岩手県の大畑町同町で5歳、3歳、11か月の3人の子を育てる阿部亜紀子さん(35)は「震災から子どもたちが夜に寝なくなると、夜泣きもするようになった。3か月近くが過ぎ、ようやくぐっすり寝てくれるようになった」と話す。

あの日、阿部さんは激しい揺れの後、すぐに保育所へ娘たちを迎えに行き、車で帰宅した。しかし津波は自宅の1階床まで押し寄せた。末っ子をおぼり、2人の子を連れ



岩手県大畑町の堤乳幼児保育園。(左から)芳賀さん、阿部さんの長女、阿部さん(35)さん

9月にも待望の仮園舎

波で園舎は流失。幼稚園再開のめどがたないまま、長女は友達や先生に会えず、3歳園に通っていた。しかし、津波で園舎は流失。幼稚園再開のめどがたないまま、長女は友達や先生に会えず、3歳園に通っていた。しかし、津波で園舎は流失。幼稚園再開のめどがたないまま、長女は友達や先生に会えず、3歳園に通っていた。

保育所・幼稚園 再開に力



あさひ幼稚園の再建に向けた集会で、段ボールの模型を使って「理想の幼稚園作り」に挑戦する子どもたち(10日午前、宮城県南三陸町で)＝中村光一撮影

管轄バラバラ 状況把握・支援に差

岩手県では、被災の報告があった認可保育所が61か所、このうち59か所が再開した。宮城県でも被災した保育所253か所のうち245か所が再開した。同県の石巻市、女川町、南三陸町で休止中の8か所も、再開に向けて準備中だ。福島県では、認可保育所155か所が被災し、休止中は26か所。

文部科学省によると、幼稚園は、岩手県で73園、宮

城県では167園、福島県では164園が被災したが、被災の程度については把握していない。

小中学校の情報は県や市町村の教育委員会が一括して把握し、対策も講じているのに対し、就学前の子どもの施設は、保育所・公立幼稚園・私立幼稚園で担当部署が異なり、県や市町村の把握状況にもばらつきがある。

岩手県山田町では保育所の利用料は4、5月分を無

くらし 家庭

料とし、6月以降は、自宅の損壊状況や現在の収入に応じて決める方針だ。

だったが、周囲の家はすべて壊され、水道も電気も途絶えて孤立した。3日後に避難所に行くこと、トイレは不衛生で風邪の人もいるなど、小さな子が安心して過ごせる所ではなかった。友人宅や夫の勤め先の事務所などを転々として、釜石市の空き家を紹介されて落ち着いた。

そんな中、2週間後に再開した娘たちの保育所は親子の大きな支えになった。「娘たちを預かってくれたから、家を再建して遊べる場所がなかったのが本当に助かった」阿部さん親子が通う保育所「堤乳幼児保育園」は高台に

6月10日、入園希望の親子が集まり、仮園舎建設のための初会合が開かれた。園長の小島孝寿さん(51)は、「9月には仮園舎を完成させ、幼稚園再開を目指したい」と話す。

30代後半の女性。結婚8年目で共働き。子どもはいます。義父母との同居のことで悩んでいます。

夫は私と知り合う前に、義父と共同名義で家を建てました。結婚の際、義父母とは同居しない約束でしたが、夫は実家のローン返済しながら、私たちが住むマンションの家賃も払っている。金銭的に余裕がありません。ローンはあと2年以上残っています。義父母は私から同居を言い出すのを待って

義父と夫名義の家 同居イヤ

(東京・F子)

人生案内

樋口 恵子 (評論家)

30代後半ともなれば、もう少しよい意味で人生に欲深くなってほしいと思えます。今ある条件のなかで悩むのではなく、自分がしたいと思う目標に向かって努力しましょう。どうせ悩むなら、不平不満のなかで耐えるのではなく、何かを得るために挑戦苦闘して下さい。家賃とローンがあるから「子どもを産めない」とおっしゃいますが、本当に子どもがほしいのですか。だとしたらそのそのストライクゾーン。職場の出産育児の支援がどれほど整備されているかを調べて下さい。何より夫と子どもについて話し合ってください。